

あま市人権講演会

～ハンセン病問題について、考えよう～

令和4年

11月27日(日)

開場／12:00 開演／12:30

あま市甚目寺公民館 大ホール他

無料 (先着650名)

★整理券が必要です。

整理券は、11月17日(木)午前8時30分から甚目寺公民館で配布します。

1人2枚まで。定員になり次第終了します。

整理券の無い方はご入場いただけません。

★託児を希望される方は、11月18日(金)までに人権推進課へお申込みください。

生後4ヶ月以上のお子様からお預かりできます。定員になり次第、申込みを締め切らせていただきます。

★手話通訳、要約筆記あり



映画上映

13:00～14:40

映画『一人になる』

語り：竹下景子 監督：高橋一郎

トークショー

15:00～16:00

竹下景子さん (映画「一人になる」語り)

訓覇 浩さん (ハンセン病市民学会事務局長)

小笠原英司さん (圓周寺住職)

人権作文発表

12:40～13:00

美和中学校

甚目寺中学校

代表生徒



撮影 篠山紀信

竹下景子さん
《俳優》

主催／あま市・あま市教育委員会

後援／名古屋法務局津島支局・津島人権擁護委員協議会・あま市小中学校人権教育研究会

～人権啓発キャッチコピー～

「誰か」のこと じゃない。

あま市人権講演会 ～ハンセン病問題について、考えよう～

人権作文発表 12:40～13:00

美和中学校

教育活動のあらゆる機会を通じて、人権尊重の精神や正義を愛する心、他人の気持ちを思いやる情懷豊かな心を育てるとともに、全校体制のもとで、一致協力して人権感覚を養うことを目指しています。

本校では、マイノリティにも温かく、誰もが「生きやすさ」を感じる人権教育を推進しています。

甚目寺中学校

本校では、人権教育をすべての教育活動の根幹に据え、生徒一人一人の存在と可能性を大切にしています。毎週水曜日には、ソーシャルスキルトレーニングの要素を取り入れた「ハートーク」を継続的に行い、生徒一人一人の存在と可能性に気付くきっかけづくりをしています。

また、毎年12月には生徒が主体となり「人権集会」を企画運営し、人権作文発表や人権講話を通して人権意識の高揚に努めています。

映画上映

13:00～14:40

一人になる

この国では、ハンセン病をわずらった人たちが、人間としての尊厳を奪われ、家族たちも差別と偏見にさらされる、いのちを削らなければならない、という状況が続いてきました。

国は1907年に「癩予防二関スル件」を制定。ハンセン病患者を「強制隔離」するという政策を始めました。そして政治家や法律家、宗教家やなんと医師までも、その過ちを見抜けず、無批判に「追従」してきたのです。それが1996年の「らい予防法」廃止まで、約90年も続いてきたのです。

この間、「人間回復の橋」への闘いがこつこつと積み重ねられてきました。「ハンセン病は不治の病ではないし、遺伝でも、強烈な伝染病でもない、隔離は必要ない」と言い続けてきた一人の医師がいました。小笠原登は、一人の医師として、一人ひとりの患者に接し、患者を「隔離」から守ろうとしたのです。それは国という「厚く高い壁」の前には、小さな「抵抗」でしかなかったかもしれませんが、隔離の中で生きる人々に仄かな灯りをともしつづけたのです。

真宗の僧侶でもあった小笠原登を生み出した「土壌」と、彼をのみ込んでいった国策、それに歩調をあわせた真宗教団。そのような時代社会にあって、「一人になる」ことに徹することができた背景や、人との出会いを描いたのがこの作品です。

トークショー

15:00～16:00



竹下 景子さん
《俳優》

愛知県名古屋市出身。
NHK「中学生群像」出演を経て、1973年NHK銀河テレビ小説『波の塔』で本格デビュー。映画『男はつらいよ』のドンナ役を3度務め、『学校』では第17回日本アカデミー賞優秀助演女優賞を受賞。また、2007年に舞台『朝焼けのマンハッタン』『海と日傘』で第42回紀伊國屋演劇賞個人賞、2015年に第66回日本放送協会放送文化賞を受賞、2019年には文化庁長官表彰を受ける。

テレビ・映画・舞台などの他、2005年の日本国際博覧会「愛・地球博」日本館総館長をはじめ、国連WFP協会親善大使、こども本の森神戸名誉館長など幅広く活動している。



訓覇 浩さん
《ハンセン病市民学会事務局長》

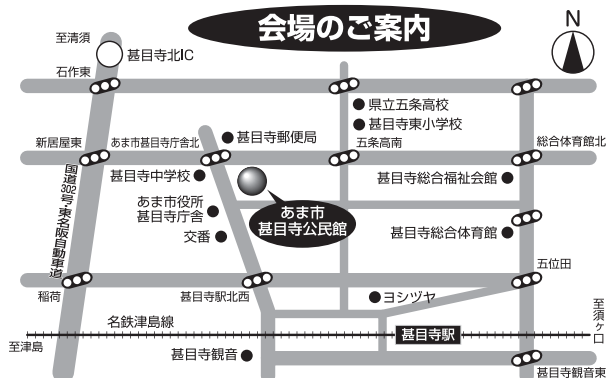
・1962年生まれ 真宗大谷派金藏寺住職
・ハンセン病市民学会共同代表・事務局長
・「一人になる」制作実行委員会事務局長
・大谷大学・同朋大学非常勤講師(人権論)
・厚生労働省、ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会当事者市民部会委員長
・2002年から2005年まで、厚生労働省ハンセン病問題に関する検証会議検討会委員
・論文など
『ハンセン病絶対隔離政策と日本社会 無らい県運動の研究』共著 (六花出版)
『近現代日本ハンセン病問題資料集成 補巻6 私立療養所』編・解題 (不二出版)
「ハンセン病隔離政策と大谷派教団―「慰安教化」活動を中心として―」(『教化研究』149号 真宗大谷派教学研究所)



小笠原 英司さん
《圓周寺住職》

1957年愛知県生まれ。
17年間、小・中学校の教員生活を勤める。
1989年真宗大谷派圓周寺に入寺し、現在同寺住職として法務のかたわら、地域の人々に医師・小笠原登の事績を伝える活動を行っている。
・真宗本廟(東本願寺)教化教導
・「一人になる」制作実行委員
・あま市教育委員会委員
・「真宗ブックレット」『小笠原登ハンセン病強制隔離に抗した生涯』(増補)東本願寺出版 共著

会場のご案内



お問い合わせ

あま市 企画財政部 人権推進課

TEL 052-444-0398(直通)
FAX 052-441-8330